

連載「ジオと喜界島」

第1回 「ジオの恵みと喜界島」

初めまして。喜界島が大好きで、島で仕事をするまでに至ってしまったサンゴ礁科学研究所の鈴木倫太郎と申します。私は、初めて喜界島を訪れた時、その光景に心が震えるほど感動しました。海岸から見る美しい段丘※の壮大さ!海で生きたサンゴが作り上げたサンゴ礁が、そのままの形で陸になり、人々がそこに暮らしている!地球のダイナミックな動きと生き物の力が作り上げたこの奇跡の島!!喜界島万歳!!!ところが、鼻息を荒くして島の皆さんにそのことを伝えても、「そう、よかったねえ」「あ、これ段丘っていうのね」等々、明らかに私の熱量とはかなりの温度差がある反応。そうなんです。島の皆さんは、この奇跡の光景が当たり前すぎて、それが凄い事だと思われていなかったのです。私にとっては、それもまた驚きでした。

色鮮やかなサンゴの海。そして、サンゴの石垣やお墓、フムラー(いも洗い鉢)などなど、喜界島にはサンゴ礁と人の生活が繋がる独自の「サンゴ礁文化」があります。さらに、豊かに育つ農作物、海からの海産物は、まさに大地からの贈り物です。

皆さんは、「ジオパーク」という言葉をご存知ですか?この「ジオパーク」とは、大地・地球を意味する「ジオ」と、公園の「パーク」を合わせた言葉で、

地球を学び、丸ごと楽しむ場所を表します。現在、日本の43の地域に「ジオパーク」があります。

喜界町も「ジオパーク」になるべく動き出しています。お!もしやこれは、喜界島の魅力を思う存分皆様にお伝えできるチャンスだ!と思い、新連載「ジオと喜界島」がスタートすることになりました。この連載では、喜界島の大地「ジオ」から受ける恩恵が実感できるお話を、島民の方へのインタビュー形式でご紹介します。ぜひ、今まで知らなかった、新たな島の魅力を発見してみてください。

※「段丘」とは階段のような地形のことです。



テールバルバンタより望む「段丘」と先山集落